

第2回広島県女子審判トレセン 報告

1. 日程 2021年12月18日(土) 9:00~14:00
2. 会場 広島広域公園第一球技場 (広島市安佐南区大塚西 5-1-1 TEL:082-848-8484)
3. 試合 「広島県 Girls Soccer Festival U-10」
4. 参加者 ユース審判 5名 脇谷咲花、有本彩花、落窪李奈、高崎いつき、西浦礼藍
インストラクター3名 田中よしこ、佐伯育伸、竹下聖、
5. テーマ 審判員が選手をリードし、試合を円滑に進められるよう努める。
6. スケジュール

9:00~ 集合・会場準備

9:30~ 挨拶・研修・大会の説明

【大会要項確認】

- ① 試合形式は A,B グループ各 4 チームの予選リーグ後、同順位同士の順位決定戦とする。
 - ② 試合時間は 24 分(前後半各 12 分)とし、インターバルを 3 分以内とする。
 - ③ 競技者の数は 8 人とする。
 - ④ ピッチの大きさは、正規の半分(68m×45m)を基準とする。
 - ⑤ 交代は自由な交代とする。ただし、GKの交代はアウトオブプレー中に行う。
 - ⑥ 警告と退場について
- 競技者が退場を命じられた場合には、その競技者のチームは交代要員の中から補充することができる。

【主審の用具の確認】

笛、時計、レッドカード、イエローカード、グリーンカード、記録カード、トスコイン

【主審のシグナル確認】

アウトオブプレー ……タッチアウト、ゴールキック、コーナーキック、交代
インプレー ……直接 FK、ペナルティーキック、間接 FK(オフサイド)

【試合の進め方】

- ① 選手をフィールド前に集める。(キックオフ時間に間に合うように)
- ② 選手の数・用具の確認(途中交代が可能なので全員、用具を確認)
- ③ 入場してベンチへ挨拶。(笛を使う)
- ④ コイントスで攻めるゴール、又はキックオフを決める。(誰を呼ぶ?)
- ⑤ 両チームの選手準備が出来たら、笛の合図でキックオフ。(時計はいつスタートする?)
- ⑥ 前半終了(インターバル計測)
- ⑦ 後半キックオフ (どちらがキックオフ?)
- ⑧ 後半終了、両チームを中央に集め挨拶。
- ⑨ 試合結果を本部に伝える

10:20~ フィールドでピッチ確認、運営手順の確認、試合に向けて準備

11:00~ 1人2試合、審判実施



【3級 高校2年 脇谷さん】

普段、審判をやっている男子とは違い、スピードもゆっくりだったので、落ち着いてオフサイドも見ることができた。

初心に戻ってひとつひとつ確認し、自分の課題にもチャレンジできた。この経験をまた男子の試合にも活かしていきたい。

【4級 高校1年 有本さん】

初めての笛で心臓がドキドキして、1試合目は緊張しすぎて何をやったのかもわからないぐらいだった。頭ではわかってもシグナルができない、不安でどこへ行ったらいいのかもわからなかった。

でも2試合目は、1試合目の反省を確認し、チャレンジできた事が増えて楽しかった。

【4級 中学3年 落窪さん】

いろいろ判定ミスもあったけど、1試合やり切れたことがよかった。普段自分たちが試合している時はわからなかった、審判の大変さもわかった。

選手とは違う緊張で疲れたけど、貴重な経験ができて指導してもらって嬉しかったです。

【4級 中学3年 高崎さん】

とても緊張した。試合前に仲間と順序を練習したり、試合後にあの場面はどうだったか、振り返って話もでき解決できてよかった。

【4級 中学3年 西浦さん】

今回は怪我で審判はできなかったが、試合を見て、試合後の反省会で一緒に情報を共有、ディスカッションできた。今度、審判する機会があればやってみたいと思った。



【佐伯インストラクターより】

- ・参加審判員でピッチ作りをしたことで大会運営側との一体感を生む意味でもとても意義があった。
 - ・4級の初めての主審をする審判員に対して、試合を進行する上ですべきことを丁寧に指導されており、審判員がリラックスして試合に臨める雰囲気作りもよかった。
 - ・場の設定的にも今回参加の審判員にとって、U10の今回の大会は雰囲気や選手の技量・スピードなどをみても適度なもので、今後のモチベーションにつながる試合になったと思う。
 - ・4級審判員は初めての主審で、しかも1人審判、頼る人もなく1試合目は緊張感の中、「いろいろな初めて」を頑張っていたのが印象的でした。2試合目は1試合目の反省を踏まえ取り組み、1試合目よりいいパフォーマンスをしていました。短い時間の試合で1日2試合出来たことは審判員にとって大きな成果、自信につながったと思った。
 - ・3級の審判員にとって試合強度は低かったかもしれませんが、4級の審判員にみて学ばせる意味でも自分を振り返り過去の自分と比較し、「これだけ力がついた」と感じさせるにはとても意義があったと思います。その中でも自分の課題を忘れず、動き方について学ぼうとしていた審判員の意欲に感心した。
- とてもいい研修で楽しい一日が過ごせました。

【田中インストラクターより】

- ・ユース年代にはこの大会はとても良い経験の場だと思いました。選手のレベル、一人審判で自分である程度判断しなければならない状況下、試合時間も初めての審判という意味では丁度良いのかもしれませんが。
- ・試合→振り返り→試合という形で1人2試合できた事で2試合目のレフェリングに大きな飛躍がありました。
- ・3級には物足りなさもあると思いますが、良い手本としてレフェリングしてもらうことで、本人にも上級者の自覚が出てくると思いました。
- ・私の場合はマリットの三人で色々話をしていたので、そちらでの時間を尊重しました。自分で考え実践する事が、この2試合で出来た事はとても良かったと感じました。
- ・大会関係者、チーム関係者の方々のご理解とご協力を頂いた事で主審という経験を積むことが出来て「2試合目で出来なかった事をチャレンジする！」という言葉が出てきた。本当に感謝しかありません。

【4種女子部 部長 森中さん】

ユース審判員の一生懸命取り組む姿勢がとても素晴らしかった。選手たちから、「今日の審判は女の人だ」と声が出たように、選手たちにも審判という存在がわかり刺激になったと思う。日頃は指導者(男性)が審判もするが、少し上のお姉さんたちが笛を吹くことで、大会の趣旨としてもいい雰囲気な大会となった。

今後もぜひ関わって一緒にサッカーを盛り上げて行ってほしいです。

【まとめ】

前日からの雪で、大会の開催がどうなるかと心配しましたが、無事大会が行われ、審判トレセンも充実したものとなりました。ユース審判員たちは準備でも積極的に関わり、大会が始まるまでの準備が大事なことも学びました。

今回参加したユース審判のうち、4級審判員は、笛を吹いたことがない子ばかりで、試合前のピッチでの練習では、3級審判員の笛の音にびっくりする様子でした。審判をやってみたくて参加してくれた子たちですが、正直、主審の経験の全くない中での一人審判は、指導する私たちも何から教えようかと手探りな取り組みでした。なので、ファウルの判定がどうかということより、「審判員が選手をリードし、試合を円滑に進められるよう努める」ことをテーマに、主審の用具、シグナル、時系列に審判が行う事等もみんな確認し、試合に臨みました。

1試合目の前半は、不安で私たちに助けを求めるかのように見る審判員もいましたが、試合が進むにつれ、プレーに近づいて見ようと動けるようになり、2試合目になると、見違えるほど笛も聞こえるようになりました。学生のチャレンジしようとする意欲は素晴らしいし、成長の速さを実感する一日となりました。

もちろん、判定面では様々な事象は起こりましたが、試合後の反省で確認し、どのように対応すべきか理解できたと思います。次回は試合で正しい対応ができるようになればと思います。

今回審判をはじめるきっかけとしてこのような取り組みにご協力頂きました4種の皆さまに感謝申し上げます。

1人でも多くの女子審判員が増える事を目標に、引き続き取り組んでいきたいと思っています。

広島県サッカー協会 女子部長 竹下聖